

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 4 報  
千葉県農林水産部  
平成28年6月28日

## 4月20日頃植付「コシヒカリ」の幼穂形成期は平年より3日早い 5月1日頃植付のほ場は平年並だが、生育進度に差あり ほ場を良く見て、穂肥や水管理等を適切に

### [ 生育概況 ]

気温は、平年並から平年と比較して高い傾向が続き、4月20日頃に移植した「コシヒカリ」は「ふさおとめ」「ふさこがね」と同様に、平年と比較して3日程度早く幼穂形成期を迎えました。また、5月1日頃に移植した各品種は、平年並みの生育となっています。

表1 品種別の幼穂形成期の生育状況

品種	植付時期	平年比 (※1)			
		生育進度 (幼穂形成期※2)	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	やや早い (6月14日)	並	並	並
ふさこがね	4月20日頃	やや早い (6月15日)	並	並	並
コシヒカリ	4月20日頃	やや早い (6月23日)	並	並	並
	5月1日頃	並 (※3)	並	やや少~並	並
ふさのもち	4月20日頃	やや早い (6月21日)	並	並	並
	5月10日頃	並 (※3)	並	並	並

(※1) 平年比は過去10か年(2006~2015年)の平均値との比較。ただし、ふさのもちは過去6か年(2010~2015年)の平均値との比較。

(※2) 幼穂形成期は、農林総合研究センター(千葉市)のほ場

(※3) 5月1日頃植付の「コシヒカリ」、5月10日頃植付の「ふさのもち」は、幼穂形成期を迎えていないため、6月24日現在の生育状況を記載

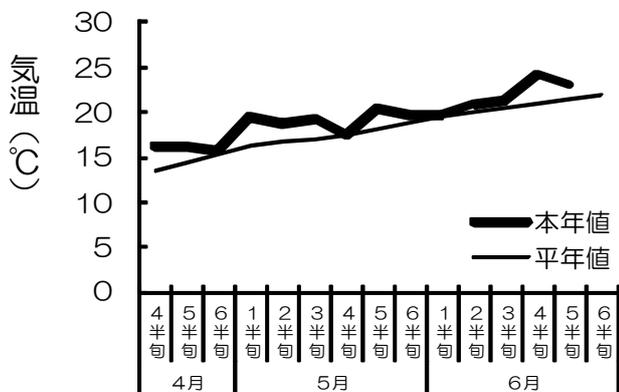


図1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

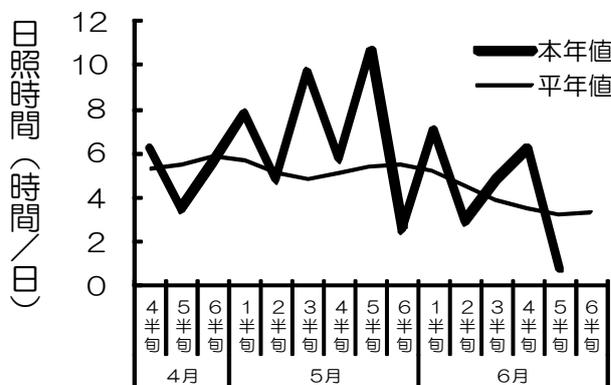


図2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

# [ これからの管理のポイント ]

生育の進みに応じた作業を適期に実施しましょう。

## ■ 穂肥の実施

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさこがね	5月1日	6月23日	6月21日	6月21日	6月21日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月25日	6月22日	6月23日	6月23日	幼穂形成期7日後頃～ 15日後頃の間 【幼穂長1cm～8cm】
	5月1日	7月2日	6月29日	6月30日	6月30日	
	5月10日	7月8日	7月5日	7月5日	7月5日	
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月28日頃～				幼穂形成期前5日頃から幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分けつ期に葉色が低下した場合は、すぐに追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月4日頃～				

※幼穂形成期は、「ふさこがね」と「コシヒカリ」4月20日植付は水稻作柄安定対策調査結果の実測値から。その他は、H24 千葉県試験研究成果普及情報を基に予測。ただし、「コシヒカリ」5月10日植付、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg（房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさこがね」は2～3kg、「コシヒカリ」は2kg）です。

幼穂形成期の目標生育量（表3、4）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素を成分量で3kgです。

表3 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 茎数 (m <sup>2</sup> 当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収	増肥、または時期を 2～3日早める。		
16,000 ～ 20,000	560 ～ 700	490 ～ 600	440 ～ 550			70～ 80cm	目標どおりの生 育が期待	標準量
				籾数確保のため 穂肥は必要 稈長が伸び、倒 伏が心配	標準量		標準	必要
20,000 ～ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰とな り、乳白米の発 生が心配	減肥（窒素施用量 1～2kg/10a）し て時期を遅らせる か、または無施用。		
				75～ 82cm		×	×	必要

(※) カラースケール値とおおよその茎数 (m<sup>2</sup>当り) の対応は、SPAD 値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

表4 幼穂形成期における「ふさこがね」の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色 (カラー スケール値)
		砂質	壤質	粘質	
ふさこがね	60~65 以下	450~500 (25~27 本/株)			5.0

※茎数の ( ) 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

## ■ 水管理 (用水を大切に)

利根川水系では取水制限中のため、かけ流し防止や漏水防止を徹底し、用水を大切に使いましょう。

### ○低温時には湛水

幼穂形成期以降に日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水 (保温) しましょう。特に冷害危険期とされる幼穂形成期後 10日~15日 (出穂前 15~10日) (表 2 を参照) は、湛水の深さを 20 cm 程度とします。

飼料用米の「アキヒカリ」「初星」「夢あおば」「べこあおば」は耐冷性が弱いため、特に注意しましょう。

### ○適正な水管理で乳白米の発生を防止

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理 (※) を行います。

特に、出穂期から出穂 2 週間後は、米の品質を決定する重要な時期です。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょう。

(※) 自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも必要な技術です。

## ■ 斑点米カメムシ類の防除

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

### ○畦畔の草刈りは出穂 2 週間前まで

出穂期前後の草刈りは、カメムシ類をほ場の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂 2 週間前頃までに刈り取りましょう。

表5 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測 (※)			
		県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	7月12日	7月10日	7月9日	7月10日
ふさこがね	4月20日	7月13日	7月11日	7月10日	7月11日
	5月 1日	7月18日	7月16日	7月16日	7月16日
コシヒカリ	4月20日	7月20日	7月17日	7月18日	7月18日
	5月 1日	7月27日	7月24日	7月25日	7月25日
	5月10日	8月2日	7月30日	7月30日	7月30日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月23日			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月29日			

(※) 出穂期とは全茎数の 40~50%が出穂した日で、出穂期予測は水稻作柄安定対策調査結果等から

## ○斑点米カメムシ類の防除適期は「穂揃期」と「出穂15日後頃」

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期（出穂期から2、3日後）」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類成虫が産卵し、卵から孵化する「出穂15日後頃」です。

大型の斑点米カメムシ類は、水田に侵入すると産卵し、成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

また、カスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所等から吸汁し被害を与えます。

出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、特に注意しましょう。

## ■ いもち病、稲こうじ病の防除

### ○いもち病

止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。

### ○稲こうじ病

稲こうじ病は穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では防除時期である出穂前に、薬剤防除しましょう。

表6 いもち病、稲こうじ病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	稲こうじ病
オリゼメート粒剤		○予防	
キタジンP粒剤		○予防	
コラトップ 粒剤5/ジャンボ		○予防	
ブイゲット粒剤		○予防	
フジワン粒剤		○予防	
ルーチン粒剤		○予防	
ラブサイド粉剤DL		○予防	
イモチエース粒剤		○予防・治療	
ダブルカットフロアブル		○予防・治療	
ノンプラス 粉剤DL/フロアブル		○予防・治療	○
ブラシン 粉剤DL/フロアブル		○予防・治療	○
カスミン 粉剤DL/液剤		○治療	
モンガリット粒剤			○
ラテラ粉剤DL		○予防	○
撒粉ボルドー粉剤DL			○
Zボルドー粉剤DL			○

※農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月15日に発行予定です。